

大学生キャリア意識調査 2010・2013 に関する追加調査  
「大学生・社会人を対象にしたワークショップの実施」  
に関する報告書

東京大学大学総合教育研究センター中原淳研究室

立教大学経営学部 館野泰一

公益財団法人 電通育英会

2016年2月29日

## はじめに

本報告書は、大学生キャリア意識調査 2010・2013 の追跡調査データを活用して実施された大学生・社会人を対象にしたワークショップに関する報告書である。ワークショップ電通育英会から支援を受け、東京大学大学総合教育研究センター 中原淳・立教大学経営学部 舘野泰一らが中心となる研究グループで実施した。この場を借りて、電通育英会の皆様には心より感謝申し上げます。

本報告の概要について述べる。これまで筆者らは、大学生キャリア意識調査 2010・2013 のデータを活用し「どのような大学生活を過ごしていた人が、企業で活躍しているのか」について分析を行ったが、質問紙調査の結果だけでは、「なぜそのような結果が出たのか」という部分に迫ることが困難であった。

そこで、大学生・社会人を対象に、ワークショップを行うことで、調査結果をフィードバックし、質問紙調査では得られなかったデータを得ることがめざした。

本報告が、大学教育の改善に資することがあれば望外の喜びである。

2016 年 2 月 29 日

東京大学大学総合教育研究センター中原淳研究室

准教授

中原淳（研究代表者）

## 本調査の概要

### 1. 調査概要

ワークショップは計3回実施した。

2015年7月17日：ヒッチハイクワークショップ 大学生9名（男性5名 女性4名）

2015年9月4日：カード de トーク いるかも!?こんな社会人ワークショップ 大学生9名（男性6名 女性3名）

2015年9月4日：ネガポジダイアログワークショップ 大学生9名（男性6名 女性3名） 社会人3名（男性1名、女性2名）

### 2. 分析データ

大学生27名（男性17名、女性10名）

社会人3名（男性1名、女性2名）

### 3. 調査設計

東京大学大学総合教育研究センター 中原淳

立教大学経営学部 舘野泰一らが中心となる研究グループ

### 4. 問い合わせ窓口

東京大学大学総合教育研究センター 中原淳

[jun@nakahara-lab.net](mailto:jun@nakahara-lab.net)

## ワークショップの概要について

本調査で実施した3つのワークショップの概要について以下で述べる。

### 1. ヒッチハイクワークショップについて

ヒッチハイクワークショップは、就職活動を始める前の学生（主に3年生）を対象としたワークショップである。このワークショップでは、「キャンパス内の道行く人に声をかけて目的の場所にたどり着く」というヒッチハイク体験をすることで、就職活動で体験する不確実さに対応する心構えを学ぶものである。

このワークショップを実施した背景には、大学生キャリア意識調査 2010・2013 によって、就職活動や初期キャリアがうまくいっている学生は、就職活動を支援してくれる他者がいる一方で、そうした他者を持っていない学生が多いという結果が示されたからである。

ワークショップを実施した結果、大学生は「自ら他者に協力をもとめる行動」をとった経験が少なく、それにより就職活動によって孤立・個別化が起こっている可能性が示唆された。また、本ワークショップは、不確実な環境において「自ら他者に協力をもとめる行動」を経験する場として有効に作用していた。





## 2. カード de トーク いるかも!?こんな社会人ワークショップについて

カード de トーク いるかも!?こんな社会人ワークショップは、就職活動を終えた学生（主に4年生）を対象としたワークショップである。このワークショップでは、就職活動で出会った「人」を一つの視点として、就職活動の振り返りを行うものである。企業によくいそうな社会人を教材としてカードにし、そのカードをもとに、自分の仕事観について振り返りを行うものである。このワークショップを実施した背景には、大学生キャリア意識調査 2010・2013 によって、就職活動における学びを相対化することが、初期キャリアによる適応に有効である可能性が示唆されたからである。

ワークショップを実施した結果、大学生にとっては、そもそも就職活動を振り返る経験をせず、経験をそのままにしていることがわかった。振り返りの経験を行わないと、就職活動で出会った人や知識をそのまま入社後に活用してしまう可能性があり、それがかえって組織適応を阻む要因になりえることが示唆された。本ワークショップは、就職活動を振り返るワークショップとして機能していた。



### 3. ネガポジダイアログワークショップについて

ネガポジダイアログワークショップは、就職活動をまだ意識していない大学1・2年生を対象としたワークショップである。このワークショップでは、社会人であるOB・OGと写真をもとに対話することで、リアルな社会人生活についてイメージしてもらうことを目的としている。このワークショップを実施した背景には、大学生キャリア意識調査2010・2013によって、大学生にとって社会人とのつながりが大学生活中に少ないことが示唆されたからである。組織適応に関する研究では、社会人生活に対する期待と現実のギャップが大きいほど、組織適応を阻むことがわかっており、本ワークショップは写真を活用した対話を行うことで、社会人生活のさまざまな側面を理解できるようにした。

ワークショップを実施した結果、大学生にとって、社会人生活は予想以上にイメージできないものであることがわかった。ワークショップでは、社会人がどのような写真を持ってくるのかを予想する活動があるが、予想が当たったのはわずかであった。以上の点から、大学生と社会人の接点を持つこと、そして、社会人の日常的な生活を伝えることの重要性が示唆された。本ワークショップは、社会人との接点を持ち、日常的な生活を知るという点において意義があったといえる。





## まとめ

以上が本調査の概要である。本調査の結果は、書籍「アクティブトランジション」にて2016年春、三省堂より出版予定である。ワークショップの詳細や、結果については、こちらの書籍を参照していただきたい。